日本列島情報ネット

関西版

大阪支社
〒550-0044
大阪市西区靭本町
1丁目15－10（森田ビル）
電　話・06(6445)6935
ＦＡＸ・06(6445)6938

昨年には大型バイクのした。「コロナ禍でも必ず四国に来たのでツしてみたい」。

（宇尾野　宏之）

……

……山　貴司氏（すやまたかし）大学卒業後、1990年伊藤忠鉄鋼販（現伊藤忠丸紅住商テール）入社。大阪土木部属し、02年伊藤忠丸チール東京土木建材室室、16年4月伊藤忠クノスチール北関東支、特約店への出向、業務を経て、22年四国支代理、23年4月現職。10月生まれ、大阪府、55歳。

年初から流通間で高値・安値の差が拡大しており、この差は今回の値上がり局面においてもそのまま残った。

【コラム】

相場は横ばい推移だが、やや弱さもある。中小物件の引き合いが低調で、それに伴い、相場の地合いが緩い。

【鋼管】

荷動きは良くない。メーカーの値上げ分を転嫁しているが、相場はこう着状態。C形鋼など他フォーミング製品も横ばいで市況に動きはない。

【鋼板類】

相場には下げ止まり感があるが、高炉メーカーと電炉・輸入材との価格差は依然として大きい。ポスコやCSCは値上げしているが、海外市況が弱く相場は下げ止まっており、先行きは不透明。

5×50×100	▲129
8×90×200	▲128
9×90×250	▲129
I 形鋼	
5.5×75×125	▲175
7.5×125×250	▲151
H 形鋼	
5.5／8×200×100	▲128
11／17×600×200	▲138
8／12×294×200	▲128
10／15×300×300	▲128

配管用鋼管（SPG）	
50A	245
150A	250
構造用鋼管（STK）	
48.6×2.3	220
216.3×5.8	230
角形鋼管	
1.2×25×25	235
3.2×100×100	196

アルミボトル缶入り生原酒
日本盛が期間・数量限定発売
モンベルとタイアップ

日本盛（本社・兵庫県西宮市、社長・森本太郎氏）は20日、アルミボトル缶第3弾「日本盛生原酒200ミリリットルボトル缶モンベルデザインボトル（本醸造、大吟醸）」＝写真＝を4月下旬より期間・数量限定で発売すると発表した。

同商品は生原酒を「アルミボトル缶にいれた業界初の商品」として2015年より販売を開始。リキャップが可能で軽くて持ち運びに便利という容器の特性から、本格的な蔵元直送の生原酒をアウトドアで楽しめると高評価を得ている。19年からはアウトドアシーンにおける飲用啓発の一環として「モンベル」とのタイアップ商品を発売、多くの支持を得た。

第3弾となる今回は、生原酒を飲みながら顧客自身が山での想い出などを空想できる「想い出や空想を語れるデザイン缶」として発売する。

アルミボトル缶の特徴は高い利便性（簡易にリキャップが可能、軽量で破損しにくい、アルミという単一材料のため廃棄しやすい）、高い品質保持特性（遮光性やガスバリア性に優れる）にある。

第1弾、第2弾はモンベル創業者で現会長の辰野勇氏がアイガー北壁に挑み、当時の世界最年少での登頂に成功したことからアイガー北壁をイメージとしたデザインを採用している。今回は日本の山の稜線をモチーフにデザインしている。

大栄環境の子会社2社
プラスチック資源循環認定を取得

廃棄物処理業大手の大栄環境（社長・金子文雄氏）はこのほど、子会社の三重中央開発とDINS関西が昨年4月に施工された「プラスチックに係る資源循環の促進等に関する法律」第48条第1項第2号に基づく再資源化事業計画を申請し、環境大臣および経済産業大臣の認定を取得したと発表した。三重中央開発が国内初、DINS関西が第2号となる。

三重中央開発とDINS関西では、複数の排出事業者から排出される廃プラスチック類を自社施設でマテリアルリサイクルすることにより、プラスチック資源循環の促進および温室効果ガス削減などを目指す。

態調査
庫増加

在庫は増加した。仕入れが前月比18・8％増、販売が同4・6％増、月末在庫は同1・6％減となった。

定尺は仕入れが同10・3％増、販売が同13・5％減となり、月末在庫は7・2％増となった。品種別の月末在庫は熱延は同29・5％増、中板は同1・6％増、厚板は同8・5％増、極厚板は同14・7％増となった。

不定尺は仕入れが同25・8％増、販売が同19・5％増、月末在庫は2・1％減となった。品種別の月末在庫は、熱延は同1・7％減、中板は9・1％増、厚板は同4・6％減、極厚板は同0・2％増となった。

縞板の月末在庫は定尺と不定尺を合わせて同0・02％減の476トンとなった。

詳細は別表の通り。

阪神金属興業

「家庭用生ビールサービス」支援

西日本でも開始

ステンレススクラップ業の阪神金属興業（本社・大阪府高槻市、社長・川本泰行氏）は今年から、西日本でアサヒビールの家庭用生ビールサービス「THE DRAFTERS（ドラフターズ）」の支援を開始した。

同サービスはサーバー（本格泡リッチサーバー）をレンタルし、毎月2回（計4リットル）定期便でスーパードライを受け取ることができる。家庭で生ビールを堪能することができる月額制のサービス。

阪神金属興業はアサヒビールの業務用生ビールのディスペンサーのメンテナンスを手掛け、使用済みステンレス製老廃棄物を全国的に取り扱っており、両社はSDGsの観点から関係性を深めているほか、地球環境に優しいリサイクル事業を構築している。

その一環で昨年には東日本で家庭用生ビールサービスの支援を開始した。本サービスは、ウェブやLINEなどから申し込むことができるが、阪神金属興業経由で申し込むとキャンペーンが適用される。

川本社長は「当社は家庭用生ビールサービスの支援という活動を通して、ご家庭でも本格的な生ビールを『うまい！』と楽しんで飲んでもらいたいと考えている」と語る。

東日本で家庭用生ビールサービス支援の一定の効果があったため、今年から西日本でも開始した。今後も東日本・西日本で家庭用生ビールサービスへの支援を積極的に展開していく考え。